

博物館だより



△ 新設された第2託児所前に集う子供たち
昭和4年頃(高岡市 伏木保育園)

伏木保育園は、大正15年に高岡市伏木東一宮の尼寺・念仏寺内に託児所として開所され、本年創立80周年を迎える。開所当時は、伏木の港で早朝から夜遅くまで働く女仲仕(船の荷役)の子供を預かった。

◁ ままごとセットとブリキのベビーボート
昭和20年代の玩具(個人蔵)

■寺院と法要 -高岡の寺院調査から-

寺院では、一年を通じて数々の法要が行われる。主なものでは、正月の修正会(年始の法要で、前の年の悪を正し、新しい年の吉祥を祈る)、2~3月の涅槃会、春の彼岸会、釈迦の誕生を祝う4月の花祭り、先祖の霊に供養する夏の盂蘭盆会、秋の彼岸会、11月には浄土真宗の寺を中心に報恩講が行われ、12月には、曹洞宗の寺などで8日に釈迦が悟りを開いたのを祝う成道会が催される。その中から3つの法要を紹介する。

1 涅槃会

釈迦が入滅した日は、実際は不明であるが、「涅槃経」などの経典に陰暦2月(現在の3月)15日とあることから、多くの仏教寺院では2月又は3月15日に涅槃会(常楽会)を行うことが多いようだ。涅槃会は、釈迦を追慕し、その教義を実践しようとする態度を法要に儀式化したもので、今日では、涅槃会を2月または3月初めから掛ける寺院が増えている。涅槃会にはインドの跋提河のほとりの沙羅双樹の林で頭を北にして静かに横たわり入滅した釈迦の姿を中心に、周囲に集まって嘆き悲しむ会衆の様子などが描かれ、また上空には釈迦入滅の2月15日にちなんだ満月が描かれ、雲に乗って天界より飛来した釈迦の母である摩耶夫人の姿も見られる。

仏殿に香や灯明などを供え、釈迦が入滅する直前の説法が記されている「仏遺教経」(「遺経」)を誦し、釈迦の遺徳を偲んで、赤・青・黄・白色などの米の粉で作られたネハンダゴといわれる団子や餅などを供え、参詣者に撒く供養行事が行われる。このネハンダゴは釈迦の舍利(骨)を模したものとされ、それを食べたり、身につけると厄除けのご利益があると信じられている。



報恩講の膳(高岡市中田・善興寺)

寺では11月中に、西本願寺では1月中旬に(新暦に改めた日程)勤められている。

上の写真は、平成10年11月に高岡市の善興寺で取材した報恩講の膳。寺での報恩講は、農繁期が終わり、秋が深まる10~11月頃(善興寺の場合は11月14~16日)、1~数日間にわたって行われ、近くに住む門徒がお参りする。

本堂では説経と説教が行われ、参詣した門徒に別室でお斎といわれる精進料理がふるまわれる。(写真左上より煮豆(金時豆)、その右煮物5品(がんもどき・しいたけ・ほうれん草・大根・人参)。中列左より和えもの(人参・ひじきの油炒めに白ごま)、おすわい(大根・人参・ひじき・油揚げ)、漬物(かぶのいろとり)、前列右汁(小豆と豆腐)。小豆は親鸞の好物と伝わり、まためでたい物でもある。近年では膳の代わりにお弁当箱が用いられる所もある。

3 成道会

12月8日は、釈迦が成道(悟りを開き、仏道を完成すること)した日。曹洞宗の寺を中心に成道会が営まれる。29才で出家し、悟りを開こうと山にこもった釈迦が山から降りた姿を描いた掛け図(「出山の釈迦図」)を祭壇の前に掛けている。痩せ衰えた姿のシッダルタ(釈迦)は、羊飼いの娘のスジャータに助けられ、菩提樹の下で12月8日朝、明けの明星を見て悟りを開いたという。

平成14年12月7日(土)の午後、市内明禪寺の法会では、着物を着た信徒達のご詠歌の中、説経がなされ、寺の住職が同一方向にまわり、拝礼する動作を3回繰り返して、信徒達が五鈴鈴を打ち鳴らす。小豆粥が振る舞われお菓子が配られる。



成道会(高岡市西町・明禪寺)



大茶室に掛けられた涅槃図の前で遺経を誦読。「舍利礼文」を礼誦し、「三拝」を3度行う等の法要が営まれる。(平成15年2月15日午後 高岡市関本町・瑞龍寺)

2 報恩講

報恩講(「ほんこさん」)は真宗寺院を中心に年1回行われる。檀那寺(「ごしょさま」)の僧侶が、地域毎にその寺の門徒の家を一軒一軒まわり、報恩講を勤める。各家では収穫の感謝と先祖の霊を慰めるため、僧侶の説経があり、家族や嫁いだ者までが集まる。

報恩講はまた、寺お講の代表的なものでもある。旧暦の11月28日に亡くなった親鸞上人の遺徳を偲んで始められた念仏の集まりが、本願寺第3世の覚如上人により法会の形となり、その集まりを「講」と呼ぶようになった。東本願

戸出野開御印状

元和3年(1617)11月1日付
紙本墨書
縦20.0cm × 横111.5cm
高岡市指定文化財



以上
楊中利波部
之内戸出野二
新村を立野
開仕市をも可
相立之旨申上
通光候則新
開之所ハ御代官
なしニ可被
仰付候旨候条
弥家数共
相立可致開
作者也
元和三年
十一月朔日
御印
横山山城守
本多安房守
政重 花押
中条村
又右衛門

加賀藩重臣の横山長知と本多政重より、中条村(現・砺波市下中条)十村・川合又右衛門に宛てられた書状。新村立て、戸出野開墾、市立てを許可した御印状(3代藩主・利常の印)である。高岡市戸出地区の発祥を示す貴重な史料である。

翌年の元和4年(1618)の「新開地檢状」(川合文書)によれば「灯油田(戸出の古い表記)新村又右衛門」とあり、既に16町4反半56歩が開墾されていることからみて、又右衛門が以前から綿密な計画を立てていたことが分かる。また寛永17年(1640)の記録によると、月6回の市が開かれており、大いに栄えていたようである。

◆新寄贈資料紹介(平成17年1月31日現在)

No.	資料名称	数量	分類	寄贈者	No.	資料名称	数量	分類	寄贈者
1.	「高岡東部耕地整理組合地区現形図」	1	歴史	塚本武彦氏	32.	小川千麿筆日本画	5	美術	國本鈴子氏
2.	中川村塚本家関係資料	4	歴史	〃	33.	編上靴	1	歴史	濱野堅三氏
3.	金武史書簡(塚本兵次宛)	1	歴史	〃	34.	高岡市電話交換開通記念関係資料	4	歴史	〃
4.	「高岡工芸品展覧会賞状授与式之図」	1	歴史	〃	35.	明治神宮鎮座記念絵巻書	4	歴史	〃
5.	見立番付「源平武者競」	1	歴史	〃	36.	海軍報国号献納飛行機関係資料	5	歴史	荒野吉治氏
6.	松倉金山絵図	1	歴史	〃	37.	図案家・米田崎秀関係資料(下図、工芸関係資料など)	475	産業	米田富美雄氏
7.	第一期種痘証	1	歴史	朝日勢津子氏	38.	絵巻書(観光名所、皇室、博覧会関連など)	602	歴史	五嶋孝一氏
8.	義経雨晴絵巻書(北村書店発行)	8	歴史	(有)越中書林	39.	漆塗膳桶、黒塗五段重	87	民俗	〃
9.	「富山県大日本職業別明細図之内」(地図)	1	歴史	〃	40.	洗濯板	1	民俗	〃
10.	絵巻書(宛先あり3枚、なし11枚)	14	歴史	米澤暢晃氏	42.	じょうろ(ブリキ)	1	民俗	〃
11.	陸軍関係図書	33	歴史	富田保夫氏	42.	足駄	3	民俗	〃
12.	陸軍軍人用資料(軍靴、軍帽など)	20	歴史	〃	43.	水引(雙斗袋多数付属)	14	民俗	〃
13.	戦時下資料(防空用具、千人針など)	6	歴史	〃	44.	ガラス瓶(駄菓子販売用)	3	民俗	〃
14.	ポスター「高岡大仏まつり」	1	歴史	〃	45.	「嫁成内附面略縁起」吉崎願慶寺	1	民俗	〃
15.	叙勲・従軍記事・授与状	13	歴史	浦島秀夫氏	46.	永平寺資料(「修証義」,「永平寺真景」)	2	民俗	〃
16.	戦時債券・保険証券	4	歴史	〃	47.	ミノゴモ	1	民俗	鳥田義正氏
17.	終戦の詔勅(テープ)	1	歴史	〃	48.	アミタゴ(俵積み台)	3	産業	〃
18.	「富山県高岡土木事務所管内図」	1	歴史	〃	49.	日清・日露戦争宣戦詔勅(明治天皇肖像画)	2	歴史	匿名希望
19.	俳人・浦島孤島写真	6	歴史	〃	50.	戦時下児童の習字	2	歴史	〃
20.	切手関係資料	23	民俗	〃	51.	旅館の調度品(金属、陶芸、漆器類)	264	民俗	〃
21.	郷土玩具(八幡馬、逆立ち独楽)	6	民俗	〃	52.	東帯天神座像	1	民俗	〃
22.	ガラス醤油注ぎ	2	民俗	神保成伍氏	53.	日本画(英一蝶、小川千麿など)	19	美術	〃
23.	ガラス横呑み	2	民俗	〃	54.	書(前田斎泰、寺西易堂など)	5	美術	〃
24.	蟹のほり「東洋紡シルファイブ 羽衣」	6	民俗	〃	55.	太田南畝筆狂歌(扇子)	1	美術	須賀月真氏
25.	御座敷織(佳秀作)	3	民俗	〃	56.	白絹袴(喪主用、揃い)	8	民俗	山本衛氏
26.	カラオケテープ	23	民俗	〃	57.	妙因寺絵巻書(タウト付)	5	歴史	荒木清幹氏
27.	電気扇風機(芝浦製作所)	1	民俗	大場良吉氏	58.	「内科各論」瀬尾順著	1	民俗	出町睦子氏
28.	両面看板(「うるし品々」,「金銀箔売捌所」)	2	民俗	〃	59.	「新編 日本文学大全」下巻	1	民俗	〃
29.	古銭	106	歴史	高田武男氏	60.	埋蔵文化財関連図書	22	図書	小田桐定子氏
30.	矢立	1	民俗	〃	61.	薬草筒	1	民俗	長崎圭爾氏
31.	室崎琴月筆色紙「夕日」	1	歴史	古谷昭史氏	62.	大福院金毘羅大権現開扉遷座記念券	4	民俗	神子高弘昌氏

郷土の歴史資料などの情報を求めています。

歴史資料や生活資料は、社会の変遷や興亡の足跡を理解する上での貴重な文化遺産です。当博物館では、古文書・生活資料などの収集保存を行い展示に生かしたいと思っております。情報がありましたら、是非ご提供をお願いいたします。

平成17年度 展 示 紹 介

◆常設展「郷土の暮らしと文化」—高岡の歴史・産業— 4月1日(金)～平成18年3月31日(金)

高岡市は、江戸初期の開町以来、銅器・漆器をはじめとする伝統産業を生み出し、今日まで商工都市として発展してきました。特に明治期における高岡商家の商業活動は、全国的にみても特筆すべきものがあり、幾多の逸材を輩出してきました。

このような郷土の特性について、当館収蔵資料を中心に高岡の歴史・民俗・産業や郷土の偉人達を紹介し、市民学習の場として公開します。

◆企画展「高岡銅器・下図の世界」 4月29日(金・祝)～6月26日(日)

高岡銅器の歴史は江戸初期の高岡開町とほぼ同時にはじまりますが、銅器が産業として確立するのは幕末から明治期以降です。角羽・金森・塩崎らの銅器問屋が貿易や博覧会で活躍し、高岡銅器の名声を高めていきました。その背景には常に国内外各地の嗜好や需要に対応する不断の努力がありました。

高岡銅器の基になる下図(図案)には、作品細部の技法・材質・色など細かな指示が記されており、なかには絵画作品として優れたものもあります。

下図をはじめ絵師や問屋が描いていましたが、明治27年(1894)に創設された富山県工芸学校(現高岡工芸高校)の教師たちや、さらに富山県工業会高岡部会や富山県工業試験場の専門デザイナーが業者の求めに応じて図案を調整することもおこなわれました。

本展では、高岡銅器産業を支えた銅器問屋である金森家、角羽家や銅器製造業者の定塚家、岡村家が所蔵していた下図類を展示・紹介します。



朝顔図銅器下図(金森宗七工房用 当館蔵)

	— 開館時間 —
	午前9時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)
	— 休館日 —
	・月曜日 (国民の祝日にあたるときはその翌日)
	・年末年始 (12/29～1/3)
	— 交 通 —
J R 北陸本線高岡駅より 徒歩10分	
— 入館無料 —	

◆企画展「大正・昭和時代と子供たち」 7月15日(金)～9月4日(日)

大正期から昭和初期の時代、子供たちは木造校舎へ通い、豊かな自然と触れ合っていました。また子供たちには、弟や妹の世話などを始めとする家庭での仕事があり、農作業や港の仕事など外での労働に忙しい母親達のために大正末から昭和初期に託児所ができました。そして太平洋戦争下の国民学校での教育や戦中戦後の耐乏生活を体験した世代、高度経済成長期の豊かな衣・食・住やおもちゃに恵まれた世代など、それぞれの時代の子供の暮らしがありました。

本展では、大正期から昭和40年代までの懐かしいとも思える子供たちの暮らしを紹介します。

保育園・幼稚園・小中学校と家庭での子供たちの生活に焦点を当て、当時の教科書・絵画・書作品などのほか、玩具・遊戯具・雑誌・漫画などを関連写真と共に展示します。



小学生の描いた汽車と飛行機
昭和10年代(個人蔵)

◆特別展「高岡の寺院と寺宝」 10月7日(金)～11月27日(日)

高岡には多くの名刹がありますが、その寺宝の中にはまだ広く知られていないものが多くあります。それらは加賀二代藩主・前田利長に伴い、守山・富山の城下町を経て、高岡へ移転してきた寺院などをはじめ、それぞれに長い歴史を育みながら、伝えられてきたものです。

高岡市の北部の二上山には、古代よりの由緒を持ち、かつて存在した養老寺の流れをくむ寺院や、中世の守山城下町時代の寺院などがあり、現在でも周辺には数多くの寺院があります。

慶長14年(1609)前田利長により高岡に城下町が造成され、北陸街道が通る中心市街などの要所に寺院が配置されました。現在でも利屋町周辺地区や国宝・瑞龍寺周辺の駅南地区などには寺院が集中しています。

一方、高岡の郊外では重文・勝興寺を中心とした伏木地区や、戸出・中田地区にも多くの寺院がその由緒を伝えています。

本展では高岡の寺院が所蔵している仏画・工芸品及び古文書などを、由来や写真と共に紹介します。



准上人御消息(越中中田志の衆中宛 善興寺蔵)

◆収蔵品展「高岡の漆器」 平成18年2月4日(土)～3月31日(金)

当館所蔵の資料により高岡漆器の主要な技法の勇助塗・錆絵・彫刻塗・青貝塗などについて紹介。その製作工程脚本や道具類、製品、下図等を展示します。